

日本応用老年学会2020年大会の運営に際して

—「産学官民連携による人生100年時代のイノベーション」—

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長 博士(医学)

石橋 智昭



ダイヤ財団が学術集会を運営します

この度、日本応用老年学会より2020年度の大会長を拝命し、「第15回日本応用老年学会大会」をダイヤ財団が運営することとなりました。大会の概要は、下記の通りです。メイン会場には財団の賛助会員である明治安田生命保険相互会社様の特別協賛により、東京丸の内の本社ビルの会議室フロア（収容総定員：500人）を利用させていただくことになりました。

日本応用老年学会について

日本応用老年学会は、老年学（ジェロントロジー）に関わる産・学・官・民のあらゆる分野の方々が集い、学際的な視点から、老年学の成果の社会への適用・応用を目的に2006年に発足、2017年に社団法人化された学術団体です（図1）。

医学、看護学、心理学、社会学、社会福祉学、都市建築学など幅広い学問領域の研究者、教育者および現場の専門職が情報交換をおこない、分野をまたいだ研究や実践のネットワークの構築を推進しています。

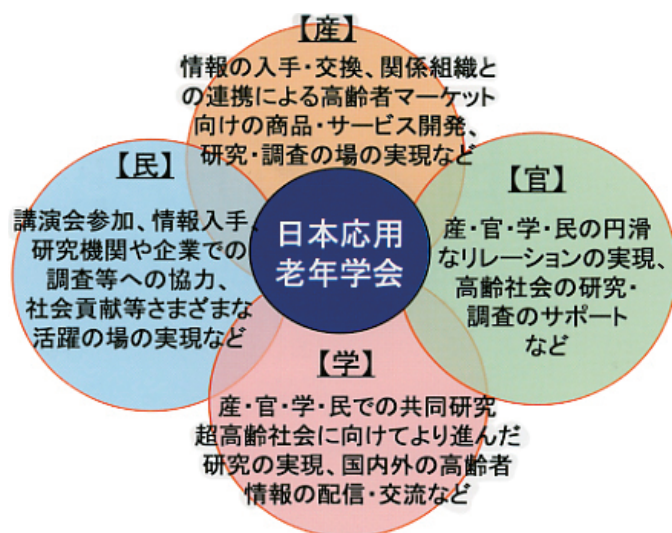


図1 日本応用老年学会の目指すネットワーク

また、学術団体としての研究活動のほか、実務者や一般市民向けに『ジェロントロジー検定試験』を毎年実施しています。これは、医療や介護、社会保障のほか、シニアビジネスの可能性からシニアの心と体、生活、地域に必要な知恵と方策などをオールマイティに理解する「ジェロントロジー」の知識が身につけられる検定試験で、合格者は日本応用老年学会より「ジェロントロジー・コンシェルジュ」に認定されます。

第15回大会の概要（予定）

1. 名称：第15回 日本応用老年学会大会
2. 会期：2020年10月2日（金）～10月3日（土）【2日間】
3. 会場：丸の内 MY PLAZA 会議室（明治安田生命本社ビル 4階）
4. 開催者：主 催 一般社団法人日本応用老年学会
共 催 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
特別協賛 明治安田生命保険相互会社
5. プログラム：【1日目】シンポジウム・企業展示・産学官民交流会
【2日目】一般演題発表（口演／ポスター）・企業展示 他
6. 参加対象：豊かな高齢社会の実現に向けた商品・サービス開発、生きがいや社会貢献プログラム等に関心を持つ、産・学・官・民の関係者

ダイヤ財団のミッションとの接点

旧厚生省の認可を受け、三菱グループ各社を賛助会員として財団法人ダイヤ高齢社会研究財団が設立されたのは1993年です。設立3年目に入職した私は、いまでは創成期を知る唯一の現役職員です。当時は、2000年施行の「公的介護保険制度」の制度設計が本格化した時期にあたり、介護市場への参入や制度の守備範囲を超えるニーズの受皿として民間企業をどう巻き込めるかが施策の成否を握っていました。

こうしたなか、産業界を代表する企業グループによる高齢社会問題の研究財団の設立は、民間参入の機運を高めるシンボルとして厚生省から期待をもって歓迎されました。公益財団となった現在もダイヤ財団のミッションには、“活力ある長寿社会”や“民間の立場からの課題解決”が掲げられており、これは当時のこうした社会状況を反映したものです。

さて、これまで財団での25年間の研究内容を振り返ってみると、各研究員が自治体や非営利団体との実践的な調査・研究を地道に続け、小規模ながらも有意義な研究成果の蓄積と発信が図られたものと自負しています。しかしその一方で、賛助会員を含む企業とのコラボレーションを通じたサービスやプログラム開発の研究に取り組んだ実績は限られています。財団の評議員・理事の方々からは「ダイヤ財団だからできる研究」、「ダイヤ財団らしい研究」をとの叱咤激励をいただきながら、その期待には十分に答えることができていない現状にあります。

今回、産学官民のネットワークセンターを標ぼうする日本応用老年学会からいただいた大会運営の機会をダイヤ財団自身の1つの転換点につなげたいと考えています。例えば、昨年9月には賛助会員企業や研究交流のある団体の方々を招いて、初の試みとして「ダイヤ財団交流会2019」を大手町で開催しました。その模様の一部は次ページに紹介していますが、幸いにも定員を超える参加者と継続開催を望む好評が得られ、財団のプレゼンスを実感する貴重な機会となりました。実は、交流会開催の背景には、2020年の日本応用老年学会の大会運営が決まり、

産業界からの集客や産学官民交流会の実現可能性を探る必要に迫られるなか、一気に企画実現まで進んだ経緯がありました。つまり、大会運営に背中を押される形でダイヤ財団がこれまでにない一歩を踏み出せたと言えます。

大会への参加と協賛のお願い

一般的に学術大会では、大学等を会場として会員（研究者）が中心となって熱心かつ活発な議論を行います。第15回大会は、『産学官民連携による人生100年時代のイノベーション』をテーマとして、日本のビジネス街の中心である丸の内で開催し、これまで参加の少なかった産業界の方々の呼び込みに注力しています。

大会テーマには、「老年学」の最新知見を、研究者だけでなく、商品・サービス開発、市場開拓、生きがいや社会貢献プログラム等に携わる幅広い関係者が共有することで連携の機運を高め、社会的な課題の解決を加速できればとの願いをこめています。

大会の1日目は、企業や非営利組織による先進的な取り組み事例を共に学び、今後の連携の可能性を探るシンポジウムを4セッション開催します。夕刻には同ビルの商業施設に会場を移し、120名規模の「産学官民交流会」を企画し大会参加者の新たなネットワーク構築も図ります。

大会の2日目は、学会員による研究発表が中心で口演やポスター発表など最大で50演題が予定されています。大会プログラムの聴講と交流会には学会員以外も参加できます（ただし、研究発表は会員限定）。豊かな高齢社会の実現に向けて、幅広い関係者に多く参加いただき、新しい出会いを通じて大会を盛り上げていただきたいと思います。

最後に、学術集会は会員の参加費で運営するべきところですが、昨今の諸費用高騰のため、参加費のみでの大会運営が困難な現状です。つきましては、法人の皆様におかれましては、団体・企業の積極的なPRと参画の機会として協賛へのご支援・ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。協賛趣意書を含む内容の詳細は大会ホームページにてご紹介しております。

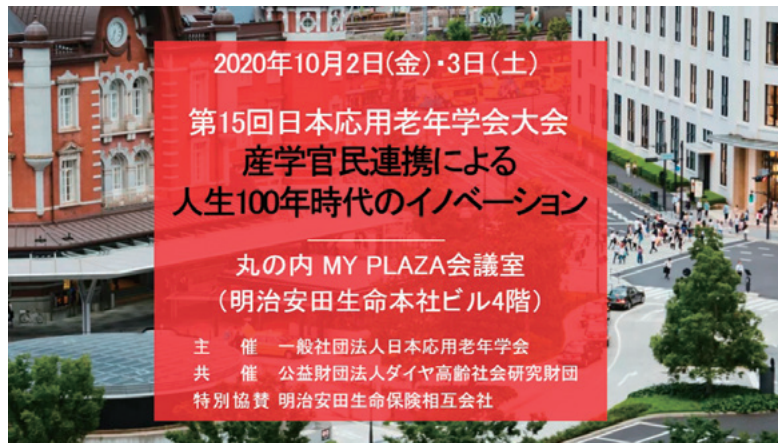


図2 第15回日本応用老年学会大会ホームページ
(<https://www.sag-j2020.com/>)

「ダイヤ財団交流会 2019」を開催

2019年9月12日（木）、千代田区大手町にある KAITEKI CAFÉ においてダイヤ財団交流会 2019を開催しました。財団は1993年の設立以来、「しあわせで活力ある長寿社会」の実現を目指し日々課題に取り組んでおりますが、小世帯ゆえ単独での展開には限りがあります。そこで、初めての試みとして財団に関する「産・学・官・民」の立場の方をお招きし、交流する機会を設けました。

高齢社会における諸々の課題・問題点などについて積極的な情報交換を行うとともに、親睦を深めることで、参加いただく方々相互ならびに財団関係者との一層の連携を図ろうというものです。当日は合計82名（64団体）の方がご出席くださり、いたるところで会話がはずみ終始和やかな雰囲気でした。参加いただいた方から、「日頃お付き合いのないフィールドの方々と交流することができとても有意義であった」や「財団の活動への理解が深まった。できれば今後も継続してほしい」などのご感想やご意見をいただきました。

財団としても、引き続き関係する方々と密接な連携をしつつ、実りある調査研究と成果の啓発普及に努めていく所存であることを表明し交流会を締めくくりました。

